

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 57 号

2015 (平成27) 年11月21日 (土)

「親友」と「心友」

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

先日、教え子と一献傾ける機会がありました。年齢は55歳で某会社の社長をしています。実に若々しく多少、太った感じはしましたがシャキッとしていて高校時代の面影が今も鮮明に残っていました。

「ところで先生、先生には親しい友ではなく、心の通った友はいますか」との質問を浴びせてきたのです。一瞬、何を言っているのかわからず、「お前、だいぶ酔ったな。そろそろ帰るか?」と言って席を立とうとすると、「先生、まあ座って下さいよ。自分は酔っていませんから」とのこと。

そして、おもむろにペンと手帳を出し、冒頭の「親友」と「心友」を書いて私に指し示したのです。

「自分には仲の良い『親友』はいるんですが、心を許し合える『心友』がいないんですよ」と。私はすかさず、「先生には両方の『しんゆう』がいるよ。一人は、石川県の金沢に(親友)。もう一人は、神奈川県の川崎に(心友)」。

「先生、そういえば私の高校時代に話していましたよね。その友達のことと違いについて。思い出しました。参った、参った先生」

広辞苑(国語辞典)によると、「親友」は親しい友、仲の良い友であり、「心友」は心を許し深く理解しあっている友、とあります。

塾生のみなさんは、どちらの友をもっていますか。「親友」ですか、それとも「心友」ですか。

先月の論語教室で、「與に言うべくして之と言わざれば、人を失う。」という章句を学びました。つまり、「一緒に話し合える友達と出会いながら話し合わないのは、友達を失うことになりますよ。」という意味でしたね。

みなさんのまわりには、一緒に語り合える素敵な友達が必ずいる筈です。そういう人に出会ったら、積極的に話しかけてみることです。同時に、その人から良い影響をたくさん受けるように努力してほしいと思います。

親友・心友にかかわらず、友達は生涯の宝になる筈です。身近なところにいるかも知れない素敵な友達を取り逃がすことのないよう心掛けてほしいと願わずにはられません。

★ お知らせ

私の人生の集大成ともいふべき論語の本が、12月1日にみなさん方の協力のお陰でいよいよ発売されることになりました。A5判・96ページからなり、定価は1,080円でタイトルは『日に日に新たに亦また楽しからずや』(意味は、「人は昨日よりも今日、今日よりも明日と進歩する・今日も精一杯生きる それこそ 何と楽しいことではないか」と、なりませうか)と決定しました。また、表紙の帯に安岡定子先生からメッセージを戴きました。

「日に日に新たに」は中国の四書(論語・大学・中庸・孟子)の「大学」からの出典。そして、「楽しからずや」は論語の学而第一の最初の章句からの出典。

みなさん方には、12月19日(土)の論語塾の折に販売したいと思っています。インターネットでアマゾンと検索し購入することも出来ます。どうぞ宜しくお願い致します。